

エ 孤立死と考えられる事例が多数発生している

誰にも看取られることなく息を引き取り、その後、相当期間放置されるような「孤立死（孤独死）」の事例が報道されているが、死因不明の急性死や事故で亡くなった人の検案、解剖を行っている東京都監察医務院が公表しているデータによると、東京23区内における一人暮らしで65歳以上の人の自宅での死亡者数は、平成25（2013）年に2,733人となっている（図1-2-6-17）。

また、独立行政法人都市再生機構が運営管理する賃貸住宅約75万戸において、単身の居住者で死亡から相当期間経過後（1週間を超えて）に発見された件数（自殺や他殺などを除く）は、平成24（2012）年度に220件、65歳以上に限ると157件となり、20（2008）年度に比べ全体で約4割、65歳以上では約8割の増加となっている（図1-2-6-18）。

オ 孤立死（孤独死）を身近な問題と感じる高齢単身者は4割を超える

誰にも看取られることなく、亡くなったあと

に発見されるような孤立死（孤独死）を身近な問題だと感じる（「とても感じる」と「まあ感じる」の合計）人の割合は、60歳以上の高齢者全体では2割に満たなかったが、単身世帯では4割を超えている（図1-2-6-19）。

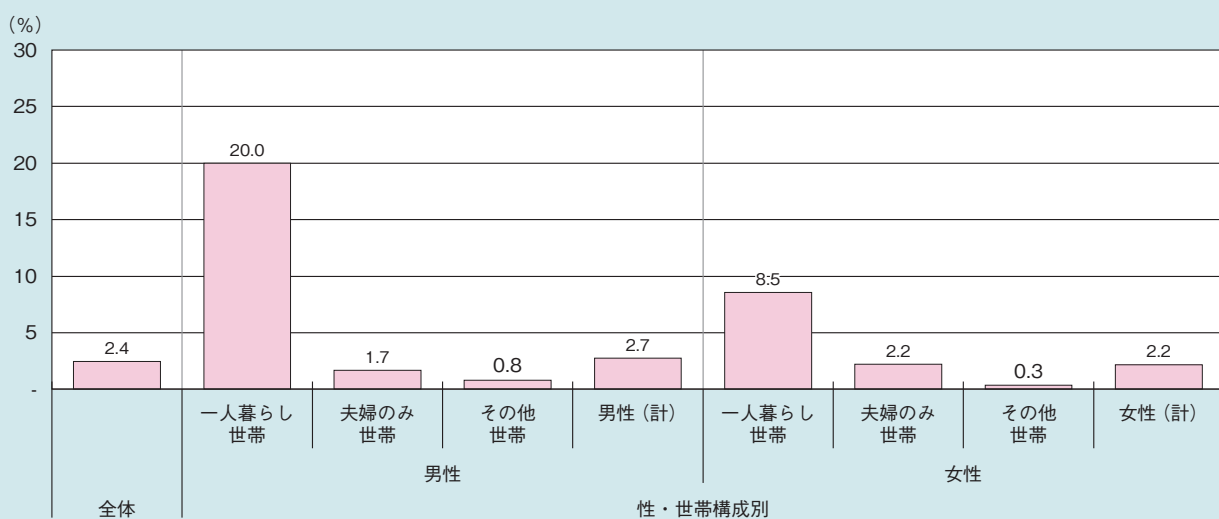
(6) 高齢者の自殺

平成25（2013）年における60歳以上の自殺者数は11,034人で、前年から横ばいである。年齢階層別にみると、60～69歳は4,716人と前年に比べ減少した一方、70～79歳（3,785人）、80歳以上（2,533人）は増加している（図1-2-6-20）。

(7) 東日本大震災における高齢者の被害状況

平成23（2011）年3月11日に発生した東日本大震災における高齢者の被害状況をみると、被害が大きかった岩手県、宮城県、福島県の3県で収容された死亡者は26（2014）年3月11日までに15,814人にのぼり、検視等を終えて年齢が判明している15,717人のうち60歳以上の高齢者は10,384人と66.1%を占めている（図1

図1-2-6-16 困ったときに頼れる人がいない人の割合



資料：内閣府「高齢者の経済生活に関する意識調査」（平成23年）
（注）対象は60歳以上の男女